

議 事 要 旨

議 事 要 旨	
会 議 名	徳島県がん診療連携協議会 診療連携部会
日 時	令和6年2月13日～2月16日 メール会議
場 所	メール会議
送 信 者	森根会長、滝沢部会長（徳島大学病院）、柴田委員（県立中央病院）、石倉委員（徳島赤十字病院）、橋本委員（徳島市民病院）、漆川委員（徳島県鳴門病院）安藤委員（県立三好病院）、影治委員（徳島県立海部病院）、正宗委員（阿南医療センター）林委員（吉野川医療センター）、鎌村委員（徳島県保健福祉部）、森委員（徳島県医師会）佐々木委員（徳島県薬剤師会）、須原委員（徳島県歯科医師会）、位頭委員（徳島県介護支援専門員協会）、宮本委員（患者会）、日野委員（乳がん部会）、西村委員（子宮がん部会）、岡本委員（胃がん部会）、岡久委員（大腸がん部会）、併任：滝沢委員（肺がん部会）、森根委員（肝がん部会）
確 認 者	森根会長、滝沢部会長（徳島大学病院）、柴田委員（県立中央病院）、石倉委員（徳島赤十字病院）、橋本委員（徳島市民病院）、漆川委員（徳島県鳴門病院）正宗委員（阿南医療センター）、林委員（吉野川医療センター）、森委員（徳島県医師会）佐々木委員（徳島県薬剤師会）、須原委員（徳島県歯科医師会）、宮本委員（患者会）、位頭委員（徳島県介護支援専門員協会）、日野委員（乳がん部会）、西村委員（子宮がん部会）、岡本委員（胃がん部会）、岡久委員（大腸がん部会）、併任：滝沢委員（肺がん部会）、森根委員（肝がん部会）
欠 席	藤原委員（阿波病院）
<p>滝沢徳島県がん診療連携協議会診療連携部会長の指示のもと、徳島県がん診療連携協議会診療連携部会をメール会議で開催とした。</p> <p>令和6年2月13日（火）に委員へメール送信を行った。（意見・要望等の期限は2月16日（金）まで）内容について、20名中17名から確認頂いた。</p> <p>【議題】</p> <p>1. 徳島県生活習慣病管理指導協議会の各がん部会より報告があった。（報告資料1）</p> <p>1) 胃がん部会：岡本委員から、胃がん部会は令和5年12月26日にハイブリッド会議が開催された。第4期徳島県がん対策推進計画改定（案）についてや、徳島県胃がん検診実施要領の改定などについて行われた。また、専門医療機関及び標準医療機関に関連して各医療機関の連携を推進する旨の発言があったとの報告があった。</p> <p>2) 大腸がん部会：岡久委員から、大腸がん部会は令和5年12月19日にハイブリッド会議が開催された。</p> <p>令和4年度医療施設機能調査結果報告から専門診療と標準的診療の機能を確認し、昨年度と同医療機関を継続認定とした。学校の教育現場で科学的根拠に基づいた正しい知識の普及や健康と命の大切さについて学ぶ機会を作るために、出前講座のための外部講師リスト（医師、看護師、保健師などの）の作成を積極的に行っていくこととなった。大腸がんの治療の記録ノートは、その活用状況に医療機関ごとに差がみられ、活用数が少ない状況にあり、より活用を進めるための取り組みを続けていくこととなったとの報告があった。</p>	

3)肝がん部会：森根委員から、肝がん部会は令和6年1月22日に肝がん部会が開催された。

令和5年度「医療施設機能調査」の結果、調査票「Q4 治療方法の実施状況」において当該治療の実施がなく、今後も予定がないとの回答があった「徳島健生病院」の指定見直しについて、委員で協議の結果、標準医療機関から外れることとなった。他の専門・標準医療機関は指定継続とした。学校教育における知識普及の必要性、循環器や生活習慣病、アルコールのリスクも含めた対策の強化が必要との意見があったとの報告があった。

4)肺がん部会：滝沢委員から、肺がん部会は令和6年1月17日にハイブリッド会議が開催された。

県内の専門医療機関は6施設、標準医療機関は9施設が認定されている。本県のがん検診受診率は40%前後で、上昇しているものの目標値50%に届いていないことを踏まえ、目標を60%に設定し、市町村、保険者、企業と協力しながらがん検診の必要性について普及啓発を行っていくことや、働く世代が受診しやすい環境整備を行っていく。最近ではゲノム医療についても肺がんについては必要な患者に提供される連携体制が確立されていることが確認されたとの報告があった。

5)乳がん部会：日野委員から、令和5年12月14日にハイブリッドで会議が開催された。

専門医療機関は徳島大学病院 徳島県立中央病院 徳島市民病院 田岡病院 徳島赤十字病院 徳島県立三好病院であり、現状の通りとなった。標準医療機関も同様に現状の通りであった。精密医療機関から他院へ紹介となった場合は、その旨を記載して市町村に送付する事となり、検査報告書の指導区分に「他院への紹介」が追加された。徳島県の要精査率 7.2% 精検受診率 92.1% がん発見率 0.52% (全国 0.34%) との報告があった。

6)子宮がん部会：西村委員から、子宮がん部会は令和5年7月6日、令和6年1月12日にハイブリッド会議が開催された。

令和4年度市町村子宮頸がん検診実績が、徳島県全体で12.2% (令和3年度12.2%) 子宮頸がん検診受診者数：19,845名 (令和3年度20,268名)、子宮頸がん要精検率：2.5% (令和3年度2.8%) 精検受診率：71.1% (令和2年度77.7%)、専門医療機関：徳島大学病院、徳島県立中央病院、徳島市民病院、徳島県鳴門病院、徳島赤十字病院、標準医療機関：徳島県立三好病院、阿南医療センター、吉野川医療センター、つるぎ町立半田病院、子宮頸癌予防のHPVワクチンの接種率がまだまだ少なく、接種率を高めるための方策について議論された。子宮頸がん検診が現在の細胞診からHPV単独法に順次移行する方針が示された。これを受けて徳島県でも数年かけてHPV単独法に変更していく準備を進めていく事が議論されたとの報告があった。

2. 各拠点病院における地域連携クリティカルパス活用状況・手帳の運用状況について

(報告資料2)

1)徳島大学病院：がん治療連携計画策定料は算定が少ないが肺がんに関しては毎月算定が出来る。

がん患者指導管理料も毎月算定を行っている。がん手帳も乳・肺・婦人科・前立腺がんは毎月配布を行っているとの報告があった。

2)徳島赤十字病院：がん治療連携計画策定料算定数は胃・大腸・肺がんが多い。がん患者指導管理料も毎月算定出来る。がん手帳については配布が出来ていないとの報告があった。

3) 徳島県立中央病院：がん治療連携計画策定料算定数も大腸・肺・前立腺・胃がんは毎月算定出来ている。婦人科がん、乳がんが増えてきた。がん患者指導管理料も毎月算定がある。がん手帳も胃・大腸・肺、婦人科、前立腺・乳がんは配布できているとの報告があった。

4) 徳島市民病院：がん治療連携計画策定料算定数は乳がん、前立腺がんの算定が出来ている。がん患者指導管理料は毎月算定している。がん手帳についてはあまり配布が出来ていないとの報告があった。

5) 徳島県立三好病院：がん治療連携計画策定料算定数は算定出来ていない。がん患者指導管理料は毎月算定している。がん手帳については配布が出来ていないとの報告があった。

各施設ともがん手帳の配布が進んでいないため、がん患者に配布を行っていただき活用していただきたい。

3. 徳島県民がんフォーラム開催報告について(報告資料3)

「徳島県民がんフォーラム2023実施報告者」についての報告

- 1) 令和5年10月29日(日)に徳島大学病院で徳島県がん診療連携協議会診療連携部会、情報提供・相談支援部会、緩和ケア部会が主催、徳島大学病院がん診療連携センターと徳島新聞社が共催し、対面で開催を行った。応募総人数は394名であったが、当日の来場者は約300名程度であった。当日の様子を徳島県内のケーブルテレビで放映を行った。
- 2) 内容は「安心して下さい～徳島県のがんサポート～」でがん相談支援センターの現状と役割、口腔ケアなどについて講演を行った。
- 3) 最後にパネルディスカッションを行い、患者さんからいただいた質問に回答した。
- 4) 継続して毎年市民公開講座を行う予定である。

4. 拠点病院調査について(報告資料4)

今年度の現況報告より、都道府県がん診療連携協議会内容として下記の質問項目が追加された。

1. 希少がん・難治がんの対応を行える体制が整備されている。
2. 小児がんの長期フォローアップを行う体制が整備されている。
3. AYA世代のがんの支援体制が整備されている。
4. がん・生殖医療における生殖医療ネットワークと協働して実施している。
5. がんゲノム医療を行える体制を整備している。

県内各がん診療連携拠点病院を対象に調査を行い、回答をいただいた。詳細は資料参照。

5. 治療の記録ノート手帳の作成について

毎年、徳島県災害医療推進基金事業より予算をいただき作成している。

今年度は、肺がん手帳の内容を一部変更し作成と甲状腺がん手帳の在庫が少なくなったため、追加増刷を行いたい。

(各がん手帳については、徳島県民がんフォーラム、徳島大学病院フォーラム、がん診療連携センターフォーラムにて参加者に関係するがん手帳を持ち帰っていただいている。)